

ばく りゅう  
麦粒

2021. Spring

麦粒 / NO. 137

発行・キリスト教センター

目 次

- 新入生の皆さんへ…………… (3)
- ボルティモア巡礼ー画家、牧野義雄と  
藪野健の絵画で巡る 名古屋英和学校、  
名古屋中学校の姿…………… 秋 重 泉 (5)
- なぜイエス様は  
馬小屋でお生まれになったのか? …… 泉 川 道 子 (12)





## 新入生の皆さんへ

### 敬神愛人



(創立者 F.C.クライン)

「先生、律法の中で、どの戒めが最も重要でしょうか。」イエスは言われた。「『心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の戒めである。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』」  
(新約聖書 マタイによる福音書 22章 36～39節)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから皆さんは、この名古屋学院大学でのキャンパスライフを過ごしていくこととなります。その上で、この大学の一員となった皆さんにぜひ知っておいていただきたいことを簡単にお伝えしたいと思います。

☆

私立の学校には、独自の理念、「建学の精神」というものがあります。名古屋学院大学の建学の精神は「敬神愛人」です。これは、キリスト教の聖典である「聖書」の言葉に由来しています。

敬神 … 神を愛し敬うこと。

愛人 … “隣人”を自分のように愛すること。

イエス・キリストは、この二つを大切にしなければならないと人々に教えました。隣人とは、近しい人だけでなく自分以外のすべての人を指すと理解されます。神は私たちを愛してくださっています。その愛をもって、私たちは神を愛し敬い、また隣人愛として他者のためにも愛を向けていく。これを本学の教育の基本にしているのです。

☆

1883年、アメリカからフレデリック・チャールズ・クライン (F. C. Klein) という宣教師が、キリスト教の伝道と英語教育を目的として来日しました。彼は、横浜に英語学校や教会を設立し、1887年、次の着任地として妻メアリーとともに名古屋にやってきました。彼らは、名古屋に着いたその日から英語の学校を開いたと伝えられています。その時、クラインがその教育の基本理念として掲げたのが、「敬神愛人」だったのです。

「私立愛知英語学校」（後に名古屋英和学校に改称）と名づけられたその学校は、1951年、「学校法人 名古屋学院」と名称を改め、そして1964年、わたしたちの名古屋学院大学が誕生することとなります。

☆

新入生の皆さんは、これから数年の間、本学の学生として様々なことを学んでいくこととなりますが、勉学や研究、課外活動に勤しむのと同時に、本学の建学の精神「敬神愛人」という言葉を心に留めつつ、人間的に成長していくこともぜひ目標にしてください。

皆さんが、自分自身のことも大切にしつつ、他者を愛していくことができますように…。また、人間同士のかかわりだけでなく、人知を超えた存在に心を向けられるような謙虚で広い視野を持った人間性が、この大学でのキャンパスライフを通して養われていきますように…。

### ◆ チャペルへの招き ◆

各キャンパスに設置されている「チャペル（礼拝堂）」では、毎週、「チャペルアワー」というキリスト教の礼拝を行っています。聖書の御言葉と祈りを中心に、教職員や近郊の牧師さんたちによる奨励を聴くひと時です。チャペルアワーを通じて、世界の大きな文化の源流の一つである「キリスト教」という宗教の教えに触れ、これからの時代を生きていく上で大切な何かを感じていただければと考えています。

<名古屋キャンパス	月曜日	8：30～40
しろとりチャペル>	火曜日	13：00～13：30
<瀬戸キャンパス	金曜日	13：00～13：30
チャペル>		

チャペルや付設のキリスト教センターでは、チャペルアワーの他にも、学生活動や聖書研究会、宗教講演会、コンサートなど様々な行事を行っています。詳細はキリスト教センターの掲示板をご覧ください。

チャペルの開館時間は、原則、平日の「8時45分～16時45分」です。皆さんのための空間ですので、最低限のマナーは守りつつ、気軽に利用してください（大声でのおしゃべり、飲食はご遠慮ください。）

ピアノは、練習のためであれば使用可能です。パイプオルガンの使用については、必ず事前にキリスト教センターにご相談ください。

チャペルの中で静かに自分と向き合い、語りかけ、そして内なる声に耳を傾けるとき、新しい導きをそこに見出したり、また何か発見があるかもしれません。ぜひ、チャペルに足を運んでみてくださいね。

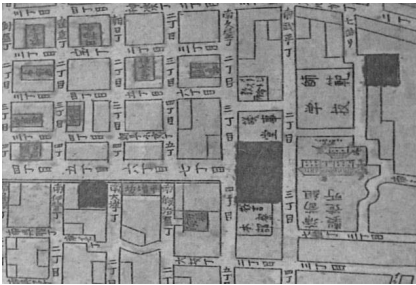
# 「ボルティモア巡礼 — 画家、牧野義雄と藪野健の絵画で巡る 名古屋英和学校、名古屋中学校の姿」

秋 重 泉

「人の子は、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」

(新約聖書マルコによる福音書 10 章 45 節)

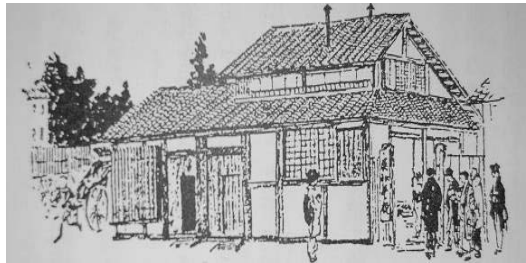
名古屋学院大学は昭和 39 年、現在名古屋中高がある当時 3 万坪の校地の一角に校舎を建て開学しました。その当時私は、高校 1 年生でしたが、学院全体に「新しい大学を創るのだ」という熱気があったことを記憶しています。私の学年で名古屋学院大学に進んだ友人たちは第三期生になります。かなり多くの同級生が名古屋学院大学に進学しました。



さて、最初に名古屋英和学校というのは、いったい名古屋のどこにあったのかということから始めたいと思います。これは明治 20 年代、栄周辺の地図です。これが広小路通、通りの突き当たりが愛知県庁でした。広小路通は行き止まりです。この時代は栄に官公庁が集まっていました。愛知県庁の裏側にちょっと変な形をした土地があります。ここに英和学校がありました。ひっくり返っています

が、英和学校に間違いなしだと思います。明治 10 年代の地図を見ると、英和学校の校舎が建っているところは田畑のしるしが付いていますが、明治 20 年代になるとこの建物が入ってくる。英和学校は明治 20 年創設ですから、これが初めて地図に出てくる英和学校ですね。つまり私たちの学校は名古屋の栄のど真ん中、広小路通りの上に建っていた。それでは最初の校舎はどんなものだったのでしょうか。

英和学校の第一期生は 12 人が入学して 7 人が卒業しました。そのうちの 1 人が牧野義雄で、アメリカに渡って大変苦勞し、それからイギリスに渡って、イギリスで大成功を収めた画家です。霧のロンドンという一連の水彩画が有名です。本もたくさん書いています。



私はたまたまロンドンに行った時に、大英博物館近くの古書店でこの本を偶然見つけました。牧野がイギリスで書いた自伝ですが、この中に実は英和学校の思い出が書かれていまして、その中に描かれている絵がこれです。これをよく見ると、ここに英和学校と書

いてあります。これは名古屋英和学校の最初の校舎に違いない。次に、藪野健先生、この方も名古屋高校の卒業生で早稲田大学名誉教授、荣誉教授、日本芸術院会員、府中市立美術館館長ですが、先生に描き起こしていただくようお願いをして描いていただいたものです。



クラインがこの家のことをボルティモアにあるメソジスト・プロテスタント教会の本部の機関誌に書いています。「庇は地面に立って手が届く」と。それから「壁は、小さくした藁をうまく泥と混ぜ合わせて塗ったものだ」、「屋根にはタイルが貼られ」、つまり瓦ですね、「窓やドアは紙のスクリーンで、溝を滑

らす」、襖とか障子ですね。アメリカ人にとっては非常に珍しかったことでしょう。

クライン夫妻は英和学校の校舎を新しく建てる資金を得るために、翌年一時帰国します。これも牧野の、この本の中に描かれているスケッチです。牧野たちはクライン夫妻を見送ろうとして早朝から 50 台の人力車に分乗して熱田の湊までみんなで見送ったと、ここに書



いてあります。クライン夫妻は、熱田の湊から伝馬船で沖合に留まっている蒸気船に乗りました。その時、クラインはこの蒸気船の上から伝馬船に乗って見送りに来た牧野に向い声をかけている。「私の部屋の机の下に革靴が置いてある。だからそれを君、使っていいから、あげるからね。今後はそれを履きなさい」と言ったそうです。牧

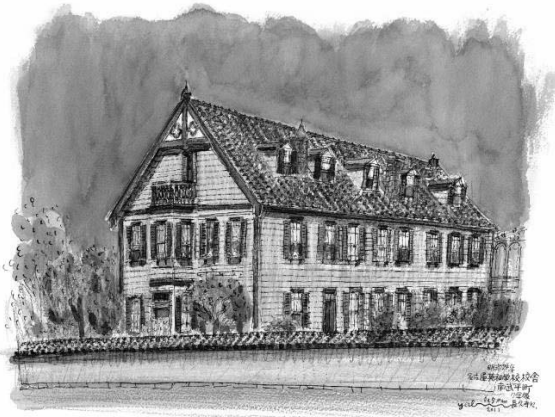
野はすごく喜んだと思います。明治 20 年代に革靴を履いている日本人は何人いたでしょう。蒸気船をよく見ると、輪が付いている、外輪船だと思います。これに乗って四日市まで行って、四日市から大型の船に乗り換えて横浜に行き、さらに横浜から蒸気船に乗り換えてサンフランシスコに行って、サンフランシスコから大陸横断鉄道に乗って東海岸のボルティモアへ、大変な旅行だったと思います。



次の写真は、東海岸のメリーランド州ボルティモアに現存するセント・ジョン教会です。この教会はクラインをはじめとする宣教師を日本に送ったメソジスト・プロテスタント教会の本拠地でした。おそらくクライン夫妻は一時帰国した折には、ここで講演をし、メリーランド州のあちこちの教会を訪問しては、英和学校校舎建築のための献金を募りました。私は2003年にこの教会を訪問しましたが、その数年前の火災で内部が焼けてしまい、いろんな書類は全部焼失してしまったということです。大変残念ですが、何も残ってないと言われました。いろんな意味で昔日の姿は無く、若者が多い急進的な教会になっていました。

クライン夫妻は1888年3月に名古屋に戻りました。メリーランド州で集めた献金を基に、新校舎を完成させました。

藪野先生に再現していただいた洋館です。これが最初の地図に簡単に描いてあったあの校舎です。よく見ると



似ています。この通り素晴らしい洋館ですから、多くの人が見物に来たのではないかと思います。

次に英和学校の教師を務めた二人の人物を取り上げます。この写真は1896（明治29）年の英和学校教員と生徒の集合写真です。真ん中に内村鑑三が座っています。内村は9月18日に着任して半年ほどしかいませんでしたが、学校に多大な影響を与えました。

内村鑑三着任の2年前、1894年に日清戦争が始まっています。日清戦争に日本は



英和学校の教員と生徒たち——内村鑑三の顔も見える  
（明治29年）

勝利して多大な権益を得るわけですが、ロシア、フランス、ドイツによる三国干渉のため権益を手放さざるを得なかったということですが、そういうことが1つのきっかけになって1902年に日英同盟が結ばれ、1904年には日露戦争へと続いていくわけです。



新聞の記事をご覧ください。たまたま藪野健先生のスケッチに対して私が解説を書いて、中日新聞の金曜日夕刊に連載をしています。その記事の1つです。日清戦役記念碑というものがあります。20メートルぐらいの高さがあります。このような記念碑が建てられるほど、この当時の人々は戦争に勝利したことに熱狂し、新聞もそれを煽るように書きたてるという風潮がありました。内村鑑三は名古屋英和学校を去った後に勤務した、東京の萬朝報という新聞で、非戦を強く主張しました。内村は一貫して、世論の熱狂に対して非戦を唱えました。その

心を表す言葉が内村の墓碑に刻まれています。これは大学のどこかに確か掲示してあったと思いますが、「私は、日本のため、日本は世界のため、世界はキリストのため、そしてすべては神のため」と。内村の徹底した非戦の思想は聖書に基づいています。2つの聖句がありますが、1つは、「平和を求むる者は幸いなり、その人は神の子と唱えられるべければなり」、それからもう1つ「汝の剣をもとに収めよ。すべて剣を取る者は剣にて滅ぶべし」。この2つの聖句を内村は信念にしていたといわれています。

さて、もう一人重要な人物の名前をあげておきます。モルフィという方です。この人は日本の女性解放の歴史の中で大変重要な働きをしています。

新聞連載をご覧ください。遊郭が名古屋にあったということを最近の人はあまり知りませんが、今でも中村遊郭があったところに行くと、そういうような雰囲気が色濃く残っています。この建物は2年前程に取り壊されましたが、遊郭の建物でした。中村に移転する





前は西大須に遊郭がありました。この連載にも記しましたが、モルフィは遊郭に乗り込んで、遊女を救出しようと大乱闘を起こしました。血みどろになって帰ってきたと当時の新聞が報道しています。モルフィの活動が元になって、戦後遊郭は廃止されました。モルフィはその功績に対して日本政府から勲章を与えられています。

最初の地図に戻ります。当時、広小路通りは栄で終点だったという話をしましたが、千種方面に延伸するため、英和学校は移転を迫られ、南武平町から東区の長堀町へ移転しました。現在金城学院中学校があるところです。引越し後、千種の方に道が伸びて、英和学校の跡地に先程の日清役記念碑が建てられました。記念碑は戦争で獲得した鉄砲とか、

そういうものを溶かして造った非常に珍しいもので、今は覚王山の日泰寺の奥の方に建っています。一度ご覧になるとビックリしますよ。今はほとんど訪れる人はいませんけれども、栄の英和学校の跡地に建っていた時にはすごい人気で、多くの人が見に来た、今でいう観光地だったようです。この記念碑が日泰寺の奥の方に移転したのは、市電が栄のこの記念碑の周りをUターンして笹島に戻っていく時に、車輪とレールのきしむ音が凄かったようです。愛知県議会をやっている時にうるさくて邪魔だからということのようです。

長堀町の校舎は南武平町にあった校舎を解体移築したものです。この校舎から最高裁判所長官・東大名誉教授横田喜三郎、名古屋市長杉戸清、中日新聞社社主大島一郎、経済評論家三鬼陽之介、俳優有島一郎、伯東創業者高山成雄など著名な卒業生がたくさん出ました。残念ながら昭和20年の空襲で焼け落ちてしまいました。名古屋学院の付属の教会だった中京教会も燃えてしまいました。現存していたら重要文化財になっていたのではないかと藪野先生と話をしました。大変美しい建物でした。

さて、昭和に入ると満州事変が勃発し軍部指導のもとに太平洋戦争へと破滅の道を日本は歩むことになります。名古屋中学でも奉安殿が設置されるという事態になりました。しかし神主が来て奉安殿の地鎮祭を行ったのはキリスト教



主義男子校の中で一番遅かったということなので、かなり抵抗していただろうと思います。

今年の8月30日、中日新聞朝刊記事の「軍神は今」という5回シリーズの第3回目です。牧野中佐という方のことが書かれています。真珠湾攻撃時に戦死した軍神と呼ばれた方です。名古屋中学の卒業生で、とても優秀な方でした。第八高等学校にも合格していたのに、海軍兵学校に志願した、そういう方です。新聞には、「中佐に続け 沸く母校」という刺激的なタイトルが書いてありますが、名古屋中学のことですね。軍の介入に抵抗していた藤川校長という方がいましたが、昭和15年に辞任を余儀なくされた。この写真は後任の大橋校長が生徒たちに牧野中佐に続けと鼓舞している場面だと思います。ある意味では負の歴史といえるかもしれません。

内村鑑三が非戦を主張して闘ったのは、この40年前です。40年の間に名古屋中学校は完全に戦時体制に組み込まれてしまった。この時代にキリスト教主義学校として生きて行くということは、大変なことだったと思います。私がもしこのような時代に校長だったら、どのようなことができたでしょうか、大変な苦難だったと思います。



次の写真に移りますけれども、これはアメリカ軍の空襲を空から米軍が撮った写真です。ここはどこだと思いますか？上に矢田川と書いてありますね。名古屋学院が中学校、高校、大学を設置した場所ということです。この土地を購入する資金は、普通ではまかなえないです。やはりアメリカの教会から送られてきたお金です。その当時

の金額で2万ドル、およそ720万円です。これを主たる財源として3万坪という広大な土地を手に入れ、校舎とチャペルを建設しました。

どうしてこんなに空襲にあっているかという、ここに三菱の工場があったためです。ほとんど燃えてしまって、私が名古屋中学に入学した昭和35年頃でも校舎の北側に爆弾の落ちた跡がいっぱいあって、雨が降ると、池になっていました。理科の実験で蛙の解剖をやるときは休憩時間中に裏へ行って蛙を取ってきたものです。そういう時代、そんな状況でした。

さらにもう1つ言っておきたいのは、中高と大学が法人の分離をせざるを得なくなった70年代の頃の財政危機が学校にはありました。この状況を救ったのもこの土地です。3万坪もある広大な土地、この半分を売却して、借入金の返済に充てた。中高と大学どっちが

生き延びるかということで大喧嘩したということがありましたけれども、結局法人を分離することによって、お互いに生き延びることになった。その資金としてこの土地の半分を売った。思い返してみると、英和学校の校舎の建築、それから大幸地の土地購入と校舎の建築、さらに校地売却ということも含めれば名古屋学院はアメリカの名もない教会の信徒たちによってズーッと支えられていたということを、創立記念のこの時にもう一度思い起こすべきではないかと思います。

やっと本題になりますけれども、2002年、私が中高の校長を務めている時に年配のアメリカ人のかたが突然現れて、校長に会いたいというので会ってみました。ジェラルド・ワイスという方で、この方はJ3というプログラムで、J3というのはJapan 3 yearsということで、その当時、ボルティモアのミッションから宣教師を3年ごとに派遣していて、その1人でした。年齢をとって妻にもぜひ自分の働いた学校を見せたいということで、観光を兼ねて名古屋に来ました。この時は瀬戸にホームステイし、そのホームステイ先の息子さんが名古屋学院大学の学生でした。それで名古屋学院大学にも行ってきたと。素晴らしい大学でとても感動したと話してくれました。



そこで私は思ったって、翌年の夏ボルティモアを訪問し、できればクライン先生の墓参をしたいと思いました。この写真は、ワイス夫妻と共にボルティモアの墓地を訪れた時の写真です。名古屋学院の100年史によると昭和30年に当時の学院長だった田中貞先生の奥様がボルティモアを訪れクライン先生の未亡人に会っているという記載がありますが、多分私がクライ

ン先生の墓を訪れた最初の名古屋学院関係者でないかと思います。

クライン夫妻は写真のように一緒に埋葬されていました。そしてその墓には「人の子は、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」と刻まれていました。クライン先生が拠り所にしていた聖書の箇所です。この墓碑銘の聖句はクライン先生の生き様を表すのに実に相応しいと思った次第です。

(あきしげ いずみ 本学理事、元名古屋中学校・高等学校校長 2020.10.13 大学創立記念礼拝)

## なぜイエス様は馬小屋でお生まれになったのか？

泉 川 道 子

その頃、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録であった。人々は皆、登録するために、それぞれ自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家系であり、またその血筋であったので、ガリラヤの町ナザレからユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身重になっていた、いいなずけの MARIA と一緒に登録するためである。ところが、彼らがそこにいるうちに、MARIA は月が満ちて、初子の男子を産み、産着にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる所がなかったからである。

(新約聖書 ルカによる福音書 2章1～7節)

名古屋学院大学の皆さん、こんにちは。12月に入り、だんだん寒くなってきました。このアドベントクランツも4本目のろうそくが灯り、いよいよ今週はクリスマスです。今日はこのクリスマスの意味について少しの間、ご一緒に考えてみたいと思います。新約聖書のルカによる福音書によると、処女 MARIA が神によって身ごもった幼子イエスは、ベツレヘムのどの宿屋からも断られ、馬小屋の飼葉桶の中で産まれたとあります。2000年前のあの夜。長旅で疲れ果てて、一時でも早く赤ん坊を出産できる場所を探してい

たヨセフと MARIA に「どうぞどうぞ、うちに来て子どもを産んでください」と言ってくれるような場所はどこにもありませんでした。イエス・キリストの「キリスト」という言葉には、「救い主」という意味や、「王様」という意味などがあります。私たちは普通、王様が生まれるとなると、本当に素晴らしいフカフカのお布団だったり、何人ものおつきの人だったり、きれいな布だったり、そういうものを想像します。けれども、この小さな MARIA さんという少女から産まれる、もっと小さな赤ちゃんイエス様に用意されて

いたのは普通とはまるで違う、汚くて、孤独さがあって、そして静かな、そういう出産の時でした。ヨセフさんとマリアさんは、子どもを出産するというには全くふさわしくないような場所で、初めての出産をしなければならなかったのです。当時のユダヤ社会はローマ帝国とユダヤ教の律法主義とヘロデ王の弾圧という大変な状況の中で、民衆がとても苦しめられていた時代でした。重税にあえいで、貧しい民衆はもっと貧しくなるばかり。その日のご飯にも困るような人たちがたくさんいたと思います。そんな中でヨセフとマリアは人口調査のために150kmもの距離を、ロバに乗って旅をしてベツレヘムへとやってきたのです。そしてベツレヘムで宿屋を探して、もうすぐ赤ん坊が産まれるという時に、ベツレヘムの宿屋の人たちはヨセフとマリアを受け入れたでしょうか。いいえ、誰も二人を受け入れる余裕がある人はいませんでした。

さて、皆さんには『居場所』はありますか。個人的なことになりますが、私は三重県伊賀市にある小さな農業高校で聖書を教えています。この学校は、名古屋学院大学とも関係の深い、内村鑑三先生の教え、「読むべきは聖書 学ぶべきは天然 なすべきは労働」を実践している

学校です。全寮制のこの学校では現在60数名の高校生が学んでいますが、彼らが日々の学びの中で意識せざるを得ないのが、自分と自分以外の人との距離感です。生徒の皆さんは共に寝起きし、共に食事をし、農作業し、そして勉強します。いつも自分の周りには誰かがいます。農場に出て牛のお乳を搾ったり、有機野菜を栽培したり、それを調理してみんなで一緒に食べたり、一見、学園の生活はとても充実していて楽しそうに見えます。でもそんな中にも、若い時には誰にでもあるように、どうしようもない孤独感に苛まれ、大勢の中にいるのにひとりぼっちを感じ、中にはこの世から自分を消し去ってしまいたいと思ってしまう人もいます。皆さんも大勢の中にいるのにひとりぼっちを感じたことはありませんか。そんな時、人は寂しく、心細く、誰もこの心の暗闇を照らしてくれる人はいない、誰も私の苦しみを分かってくれる人はいない、と、まるで先のない真っ暗なトンネルをトボトボと一人で歩いているような気持ちになるのです。

先日、『朝が来る』という映画を私の娘と一緒に観に行きました。その映画は特別養子縁組で養子を迎えた夫婦と自分が産んだ子を養子に出さざるを得なかつ

た女の子の映画でした。実は私のかわいい一人娘も、特別養子縁組で生まれて4日目に我が家にやってきた養子です。ですから、その映画の中でひとりぼっちだった子どもを産んだ女の子、その子どもを産んだお母さんを見ながら私は、私自身今育てている子のもう一人のお母さんのことを考えました。彼女は今どうしているのだろうか。どこに住んでいるのだろうか。はたして幸せに暮らしているのだろうか、考えました。私はひたすらそのお母さんに娘を産んでくれたことを感謝していますが、そのことを本人に伝えるすべは、私は持っていません。もしいつか彼女に会うことができたなら、私の今育てている娘がどれだけの幸せをくれているか、彼女がその子を産む決意をしてくれたことで、私たち夫婦が授かっているいくつもの幸せを彼女に伝えてお礼が言いたいと思っていますが、今の私たちにはそれができないかもしれません。そんなことを映画を観ながら考えていました。映画の中で突きつけられたのは養子をもらう側の夫婦の安定感と、養子に出さなければならぬ側の実母の孤独感の格差でした。あまりにも違いました。そしてこれが今の日本の社会にある現実なのだと思います。人間は誰しも、自分を認知して、自分の居

場所はここですよと迎え入れてくれる場所を必要とする生き物です。私が働く高校で、寮生活をおくる高校生も、映画に出てきた若いお母さんも自分の居場所を見つめることができずに大きな不安を抱えていました。皆さんの周りにはそんな人がいますか。または皆さん自身不安の中にいますか。神の御子であるキリストが、当時の人たちが誰も知らない小さなベツレヘムという町のそれも馬小屋の飼葉桶の中でお生まれになったということは、イエス様こそ居場所を探し求めてウロウロと心細くさ迷い歩く人間の苦しみを、その当事者として理解し、共に泣き、共に苦しんでくださる方であることを意味します。神様はこの世でもっとも小さくされている人々のために、この世にイエス様をおくってくださったのです。

赤ちゃんイエス様は、神様の愛を信じて出産に踏み切ったマリアと、自分の子でないにもかかわらず同じように神様を信じて彼女に寄り添ったヨセフという二人の人間の愛によってこの世に生み出されました。今年は本当に様々なことがありました。この様々なことがあった2020年のクリスマス、どうか皆さんの周りにいる不安な人と繋がって、小さな安心を

つくり出せるようなクリスマスでありま  
うなクリスマスとなるようにお祈りして  
すようにと願います。皆さん自身もイエ  
います。  
ス様からの愛を受け取めて安心できるよ

(いずみかわ みちこ 愛農学園農業高等学校 教頭／聖書科・音楽科 教諭 2020.12.22)

## チャペル・ブックレット

宗教部では今までの「宗教講演会」等のお話をブックレットにまとめています。ご希望の方は、キリスト教センターへお問い合わせください。大学ホームページからもPDFファイルでご覧いただけます。

- No.1. 「経済の論理と人間の論理」(塩沢 美代子)
- No.2. 「心を問い続けて」(谷 昌恒)
- No.3. 「国際化時代におけるキリスト教の使命」(徐 洗善)
- No.4. 「激動化する現代史と神のみことば」(池 明観)
- No.5. 「生きることの感動」(金 纓)
- No.6. 「生きるよろこび」(村田 佳寿子)
- No.7. 「心を支えているもの」(山本 将信)
- No.8. 「主の愛この眼にありて」(武岡 洋治)
- No.9. 「日本におけるキリスト教主義大学の使命」(池 明観)
- No.10. 「いのちを支えるホスピスケア」(柏木 哲夫)
- No.11. 「天と地のひびき」(小塩 節)
- No.12. 「絵本のちから」(松居 直)
- No.13. 「ハイジ、クララは歩かなくてはいけないの？  
—こどもの物語と聖書に見られる<しょうがい者>差別—  
(荒井 英子)
- No.14. 「お父さん、僕はなにに人？ —間 (はざま) から読む聖書—  
(金 永秀)
- No.15. 「人権・生命の尊厳 —野宿生活者の現場から—」(松本 普)
- No.16. 「地球に、そして日本に生まれて今ここにいる」(太田 信吉)
- No.17. 「メイク・ア・ウィッシュ ～夢の応援団」(原 順子)
- No.18. 「人間関係を生きる知恵」(島 しづ子)
- No.19. 「命のことば」(水谷 誠)
- No.20. 「宗教が戦争の原因？ —神教がアブナイ？」(桃井 和馬)
- No.21. 「福田敬太郎——神に向き合った生涯」(小野 静雄)
- No.22. 「F.C.クラインと「敬神愛人」」(黒柳 志仁)
- No.23. 「祈りつつ学び、感謝しつつ働く  
—内村鑑三、名古屋英和学校赴任のころ—」(葛井 義憲)
- No.24. 「NHK連続テレビ小説『エール』とキリスト教  
キリスト教主義大学が大切にしたいこと—『敬神愛人』」(西原 廉太)